



遠軽町図書館

42-3632

NO. 113

12月4日号

# 新着速報



あおぎり

## 『梧桐に眠る』

澤田 瞳子

- ・ 8世紀の奈良、遣唐使に伴われて唐の長安からやってきた袁晋卿。孤独な生活を余儀なくされていた彼は…。

## 『三頭の蝶の道』

山田 詠美

- ・ 女性作家が「女流」と呼ばれた時代、文学に身を捧げた女たちの創作の業を描く。

## 『ラバウルの迷宮』

鈴木 智

- ・ 終戦直後、ラバウル基地には10万人の無傷の日本兵がいた。彼らが収容された第九収容所では、暴動の噂が…。

## 『真珠配列』

岩井 圭也

- ・ 2029年、北京。常軌を逸した速さで進行する癌で有力政治家の息子が死亡、同様の癌での死亡事例が見つかる。

## 『さよならの保険金』

額賀 滯

- ・ 漁師だった父の遭難事故で、家族と就職先を一度に失った麻海は、保険調査員の叔父のもとに転がり込む。

## 『筒井康隆自伝』

筒井 康隆

- ・ 生まれて最初の記憶、作家デビュー、断筆宣言…。最後の文豪・筒井康隆が、自らの人生を濃密な文体でつづる。

## 『江戸商い解剖図鑑』

菊地ひと美

- ・ 江戸時代にしたためられた「町人考見録」。江戸時代の商人たちの豪勢な暮らしぶりをイラストで紐解く。

## 『そこに縁があるから』

あらた ちとせ 新 千継

- ・ 筆者の出身地は周囲の人々に「縁があるまち」と呼ばれていた。「縁がある」とは何を与えてくれるのだろうか。

## 『変わり者たちの秘密基地国立民族学博物館』

ミンパクちゃん

- ・ 世界最大級のコレクション数を誇る日本の至宝・国立民族学博物館、通称「民博(みんぱく)」。

## 『オーバードーズする子どもたち』

松本 俊彦

- ・ 子どもたちはつらい感情を和らげようと市販薬をオーバードーズし、いつしかそれを手放せなくなっている。

## 『余り毛糸の活用手帖』

成美堂出版編集部

## 『藤井なべ』

藤井 恵

## 『はじめてのキャップアート』

CAP AKIRA TOKYO